

10.5 つたえるアンケート抄

旧 Twitter (現 X) & Facebook 「とある民俗学講師 (の補足メモ)」

- * 「メディア media」とは? : 「霊媒 medium」の複数形、さまざまな「媒介するもの」(プラットフォーム/コンテンツ)
- * 「メディアはメッセージである」(by マクルーハン) →メディアが「規定」する思考様式/社会組織
- * メディアの発展は「代替的」ではなく「積層的」→個別的な歴史性に「規定」されるメディア環境の発展
- * 「コミュニケーションの二段階の流れ」(by ラザースフェルト) →オーディエンスの共同体の役割
- * メディア・リテラシーとその限界: 「誰が」「何を」「誰に対して」「どのようなチャンネルで」「どのような効果で」

【声】小学校低学年でまだ幼かった頃、毎週のように祖母の家にお泊りに行っていた。寝る前にはいつも、祖母の家にたくさんある童謡や昔話の小さな絵本を横で読み聞かせてくれた。いつも気づいたら寝てしまっていたほどに、祖母の読み聞かせる声は、不思議と心惹かれる心地よいものであった。

【手書き文字】私は、大事な予定や実験のデータなど、忘れると他人に迷惑がかかる情報はすべて紙でメモするようにしている。電子機器のメモ、アラーム機能を信用していない訳では無いが、自分の性格を考えると、もしそれを頼りにしてミスすると電子機器のせいにしてしまうと感じるからだ。それでは本当に相手に申し訳ないと思って謝罪できないと考え、忘れたとしても紛失したとしても自分の責任になる紙を利用している。

【回覧板】田畑広がる山麓の地元での回覧板が好きだった。当時、お手伝いの一環として次の家へ回覧板を届ける役割を私が担っていて、訪問すると親切にお茶を出してくれることもあり、近隣とのコミュニケーションのきっかけになっていた。メディアが人をつないでいる回覧板は、高齢者が多く住む地域では残すべきものだと感じる。

【新聞】一人暮らしで新聞は購読しておらず、実家で暮らしていた時も積極的に読んでいた訳ではありませんが、たまに目に入って読む時は集中して読む時もありました。興味が薄いテーマであっても目に入ってくるので読むことになり、新鮮で面白いということがあります。また、紙面の下の広告欄にある広告のジャンルが各新聞によって違うのが面白いことも理由の一つです。例えば書籍の広告でもスポーツ新聞はオカルト系の俗っぽいもの、日本経済新聞だと自己啓発系のもの、など購読者の層的に当たり前ではありますが、違いを分かりやすく感じるのが新聞の楽しいところだと思います。

【雑誌】幼い頃、近所に住む祖父母の家によく遊びに行っていたのだが、祖母が毎月『ぷっちぐみ』や『ちゃお』等の女子用雑誌を買ってくれていた。色々な漫画が1冊で読めるし、付録も付いていたのでお得だと思って読んでいた。妹と奪い合いながら読んでいたが、今思い返してみれば、雑誌を読んでいた時間が大事な思い出と感じる。今では漫画も携帯で読める時代ではあるが、私は自分の手でめくりながら読む感触が好きで本を買って読んでいます。

【本】私の好きなメディアは小説などの書籍だ。画面を滑らせる指とは違い、紙をめくる指先には確かな抵抗と重さがある。読み進めるにつれて残りのページが減っていく感触や、葉の位置が少しずつ奥へ移動していく変化は、読書の時間そのものを可視化してくれる。折り目や書き込み、わずかな汚れが積み重なった本には、その一冊と過ごした時間の記憶が宿る。情報が速く流れ去る時代だからこそ、私はこの遅さと手触りを愛している。

【CD】CDは主として音楽を伝達するための媒体であるが、ジャケット及びブックレット、帯とバックインレイの表裏、CDの表面などで実に多くの情報を伝達することができる。オンラインで配信されている音楽と比較してみると、その情報量の違いは明らかである。CDは創作者の想いを強く感じられるので、私の好きなメディアである。

【映画・映像】映画館「出町座」（京都市上京区）は、私にとって映画を鑑賞するだけでなく、空間全体で体験するメディアである。年に数回、友人と訪れるが、B級映画を中心とした作品選定、小規模なシアター、落ち着いた客層によって、作品の余韻に浸りやすい環境が整っている。館内にはカウンター席があり、食事をしながら過ごせる点も特徴的で、映画館という枠を超えた居心地の良さを感じる。特に印象に残っているのは、大学の友人と「四畳半タイムマシンブルース」を大文字焼きの時期に鑑賞した体験で、作品世界と現実の季節や土地が重なり、強い没入感を覚えた。

【ラジオ】一人暮らしを始めてから、私は深夜帯の全国ラジオ放送を聴くことが増えた。オールナイトニッポンを流して過ごすことが多い。テレビのように画面を見る必要がなく、声だけが淡々と部屋に広がるため、勉強の手を止めずに済むし、深夜特有の孤独感が少しやわらぐ感覚がある。実家では家族の会話やテレビの音が常にあったが、一人暮らしになると、自分の部屋は驚くほど静かで、時間の流れさえ止まったように感じることがあった。その時、ラジオの持つ連続した語りなどのリズムが、生活の基盤を整えてくれるように思えた。遠く離れた場所で同じ番組を聴く無数のリスナーが存在するという可能性が、自分が都市の中の一人としてつながっている感覚を与えてくれる。ラジオは情報装置以上の働きを持ち、一人暮らしの生活を時間的にも心理的にも支える重要なメディアである。

【テレビ】小学校低学年だった頃、家に帰るやいなやテレビをつけて、祖母とおやつを食べながらサスペンスドラマをみた思い出がある。私はドラマが一番好きだったが、それ以外にもワイドショーやニュース番組、ショッピング番組など、チャンネルごとに放映される様々なコーナーを見るのも好きだった。ある番組がはじまると「もう17時か」というように、時間感覚とも結びつくようになった。今も実家に帰った時には、目的の番組もないのに必ずつけてしまう。

【旧Twitter（現X）】好きなメディアはTwitter。フィルターバブルがあるからこそ自分の興味と合致した、その一方で関連したまだ知らない新しい情報に出会うことができ、世界が少し広がるように感じるのが好きになった理由である。

【LINE】私の好きなメディアはLINEである。先週の夜11時頃、自宅で好きな人からのLINEの返信を待っていた。LINEは、返信内容も大切だが、それよりもメッセージの端に小さく表示される「既読」という文字が大切な役割を果たしていると思う。メッセージの内容以上に相手の存在を感じられる点が、私がLINEが好きなポイントである。

【インスタ】私がインスタを好む理由は、友人の日常をストーリーという機能で知ることができ、話のきっかけや趣味の繋がりをつくることができる点である。とくに同じ中学校や高校の友達で、大学が異なる友達とは、日常で出会う機会が少なくなった分、インスタで様子を知れるのは嬉しい。また、私は旅行に行く際、インフルエンサーによるインスタの投稿を参考に、観光地やグルメを調べることがある。インスタは日常により踏み込んだメディアである分、あまり有名ではないが現地の人には人気のお店などを知ることができ、情報収集の手段として重宝している。

【サブスク】アニメ専門のビデオ・オン・デマンド・サービス「dアニメストア」は、月額550円で見たいアニメが見放題になるというアプリだ。私はアニメが好きで、シーズン毎に作品をチェックしているが、私の住む県では放送範囲外だったり、放送されても「二週間遅れ」ということが多々ある。しかし、dアニメストアだと基本的に放送後すぐにアニメが配信される。好きな作品をいち早く、話題作を熱気が冷める前に見ることが出来る。アニメ好きとしてとてもありがたい。

【！】私が高校生の時、家族全員がスマホを持っており、それぞれが自分の部屋でスマホを弄っていて会話がなかったが、「紅白歌合戦」の時だけは家族全員がリビングに集まり一緒に観ていた。自然と会話も弾み、話も脱線して楽しかった。